

# Dance ダンス Dance ダンス Dance ダンス



沖縄ダンススポーツグランプリ&  
沖縄県DS連盟創立20周年記念式典

宮城県DS連盟創立35周年祝賀会



公益社団法人  
日本ダンススポーツ連盟  
Japan DanceSport Federation

2016 No. 79





世界中のダンサーに愛される 今大人気のブランド

# BD Dance シューズ

豊富なデザイン

フィット感



リーズナブルプライス



耐久性

激しい練習

クッション性

スタンダードチャンピオン  
シモーネ&アネッタ

ラテンチャンピオン  
アニエル&ペラ

**JDSF会員様限定 常時特別価格にて販売中!!**

## チョイスダンスショップ

171-0022

東京都豊島区南池袋2-26-7 城北ビル7階

TEL. 03-3980-5559

【営業時間】 11:00~19:00

チョイス・ロンドン・ジャパン

検索



# ご挨拶

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟  
業務執行理事 佐倉 文彦



今年の冬はいつもよりも暖かく感じていましたが、自宅近くの公園の桜は陽当たりが良いせいか、3月の半ばにして満開となりました。また、気温が低いおかげで、散るスピードも遅く、今年は長めのお花見期間を楽しんでいます。

さて、私は平成27年6月の総会で、公益社団法人日本ダンススポーツ連盟（JDSF）業務執行理事に就任いたしました。私は学生時代、電気通信大学在学中より学連で競技ダンスを始め、卒業後はJDSFの競技会等に出場してダンススポーツの経験を積んでまいりました。10年程前に現役を引退し、それ以降は東京都DSCや、東京都ダンススポーツ連盟、関東甲信越ブロックAリーグ部等で、役員として組織の運営やダンススポーツの発展に微力ではありますが尽力して参りました。現役時代にお世話になったJDSFに少しでも恩返しができればとの思いでお手伝いをさせて頂いております。

そんな中、昨年6月の総会において業務執行理事に選出され、合わせて情報システム本部長、アスリート委員会委員長も拝命いたしました。大役を頂き、大変光栄であると共に大きな責任も感じています。これまで以上にお役に立てるよう一生懸命にがんばっていく所存です。情報システム本部としては、情報システムを用いた各種事務作業の迅速・効率化、会員へのITサービス向上など課題は山積みですが、着実に実施していきたいと考えています。また、本年は新審判システムもWDSFに合わせてV2.1の開発を行い、早ければ三笠宮杯から適用していく予定です。無線LANを使った、リアルタイム採点システムも徐々に活用範囲が広がってきていますので、引き続き品質の改善を図っていきます。

アスリート委員会は、日本オリンピック委員会（JOC）からの要請もあり、トップアスリートの意見を組織に反映することを目的として新たに設立した組織です。単なる意見の集約だけでなく、組織を活発化するための新たなアイデア出し等、志の高いメンバーと意見交換を行いながら前向きな活動につなげられる委員会にして行きたいと考えています。

また、昨今のJDSFを取り巻く環境は厳しいもので、会員減少や高齢化の問題が非常に大きな課題であることは周知の事実だと思います。これらの課題を踏まえて、将来のJDSFのあり方について、またこれからのダンス

界やJDSFを支えていく若手の会員の意見を代表する立場としても、積極的に発言を行い貢献していきたいと考えています。そのためには、まずはダンススポーツの知名度を上げることが必要だと思います。昨今はメディアに取り上げられることが以前よりも多くなっていますが、オリンピックの正式種目や国体の正式種目を実現し、もっとメディアへの露出を増やして行かなければならないと思います。また、日本からも世界でメダルを取って活躍できるスター選手を輩出することが必要です。フィギュアスケートの羽生選手や、ラグビーの五郎丸選手のようなスター選手をJDSFからも誕生させるよう、私も努力をしていきたいと思っています。

さて、本年は6月5日（日）に駒沢体育館において、東京オープン・ダンススポーツ選手権が開催されます。例年3月に行っているこの大会は、今年は6月に変更し、また会場も駒沢体育館に移しての開催となります。本戦はWDSF・インターナショナル・オープンのクラスが開催されるということで、世界各国から強豪選手が集まり、内容の濃い競技会になると予想されます。日本選手にも是非上位に入賞できるよう、頑張ってくださいと思います。また、今回新たな試みとして、WDSF・オープン・シニアⅢ（スタンダード）も開催します。シニアⅢは、世界を見ても日本は非常に高いレベルを有していますので、多くのエントリーとレベルの高い競技会になることが見込まれます。その他、例年通り、第10回U-23オールジャパン・ダンススポーツカップも開催します。学連選手やジュニア等、次世代のチャンピオンを目指すフレッシュな若手選手の活躍も楽しみですが、今年は新たな試みとして、このU-23区分に大学・クラブ対抗の団体戦を導入することを検討しています。学連は元々団体戦をメインに活動していますので、U-23の区分に団体戦を導入することで、学連の選手も違和感なく競技会に参加でき、また学連特有の大声援で大いに盛り上がることも期待しています。6月の開催ということで、学連にとっては新入生歓迎行事の一環としてもこの競技会を活用頂けるのではないかと考えています。この大会は学連OBでもある私が実行委員長を引き受けましたので、是非、学連とも協力してダンス界を盛り上げるような施策を検討していきたいと考えています。

# 「日体協コーチ」を受講して

青森県ダンススポーツ連盟  
(DSCJスタンダードA級・ラテンA級)

田中悦子

平成27年3月～平成28年3月までの足かけ2年、「日本体育協会・コーチ」の資格習得にむけた体験や意義など少しですがご紹介します。



八戸市スポーツ奨励賞受賞した  
吉田武将・田中悦子組 (右が筆者)

## 1「日体協コーチ」とは

公益財団法人日本体育協会の定める公認スポーツ指導資格のなかで、「コーチ」の担う主な役割は次の3点に絞られます。

- ・地域における競技者育成の指導
- ・広域スポーツセンターや競技別トレーニング拠点における有望な競技選手の育成
- ・国体の正式競技における監督資格義務

平成27年10月現在、日体協コーチ指導登録者数は37競技、延べ16,525名。ダントツはサッカーの4,265名。ダンススポーツ部門では58名が「コーチ」登録者です。

## 2受験の動機

すでに「日体協・公認指導員」として普及や指導活動を4年間続けていましたが、さらに「コーチ」を目指したのは

- ・自分自身のスキルアップ
- ・ダンススポーツ普及活動と後進の育成 (世界や国内主要大会の体感を伝える)
- ・行政機関やスポーツ関係団体との信頼関係を深めるためでした。

平成26年度に、ダンススポーツ部門としては青森県初の「スポーツ大賞」(県教委)・「最優秀特別選手賞」(県体協)・「スポーツ奨励賞」(八戸市)を受賞し、各機関から関心を寄せられ生涯学習講座の講師を頼まれるなど、社会的信用という責任の大きさにスキルアップ意欲も増しました。

## 3カリキュラム

日体協の共通科目群と、JDSFが養成する専門科目の

受講内容を簡単にご紹介します。

- ①共通科目Ⅰ＋共通科目Ⅱ＋共通科目Ⅲ 合計153時間 (集合40時間、自宅113時間)

集合学習は、世界選手権大会と三笠宮大会を終えた「11月1日～5日」を選び東京へ。会場には各競技種目等から176名の受講者。5日間とも朝9時から夜19時まで、昼食休憩の他は1科目＝4時間が続き、学生時代よりも勉強に集中する毎日を過ごしました。スポーツ倫理、法的責任、心理学、人体生理学、バイオメカニクス、運動力学、トレーニング論、栄養学、スポーツ医科学、競技者育成指導法。さすがは各専門分野の講師陣。眠気どころか、脳の疲労も感じないうちにテキストと別に渡されたレジメ分まできっちりと教えてくれます。(見直す時間が欲しい)

自宅学習は1日2時間×週3回＝6時間と仮定して、113時間は19週間で約5ヶ月。筆記試験直前の1週間は、睡眠と戦いながら共通科目テキストの内容をノートに書き写す「短期集中作戦」。ちょっと焦りました。

- ②専門科目60時間以上

・第1回目 平成27年8月29日～31日

JDSF有明トレーニングセンター(DTC)に、ダンススポーツの「コーチ」受講者が集合。青森から沖縄まで11名(うちプロ3名)が初顔合わせです。JDSF指導員の役割と機構・ドーピングの座学後は、アレクサンダーテクニークの実技を2時間。翌日は別会場で、応急手当について聴講し昼食を簡単にすませて新宿へ移動(シノダ・スポーツダンスクラブ)。いよいよ世界チャンピオン「ベネデット&クラウディア」組による、最新のスタンダード技術論と実技講習みっちり4時間の開始です。毎年開催されるコンgresでの笑顔と打って変わってお二人とも真剣な眼差し。日本のダンススポーツ・アスリートを育てる「コーチ」受講者へ、容赦はありません。まず、女性のエスコートのしかた、ホールドの組み方とタイミング、演技終了と余韻の見せ方は誰でもすぐに取り入れられそう。

## 追悼



西田善夫JDSF元理事(スポーツアナリスト、元NHK解説主幹)は2月27日、他界されました(享年80歳)。ご生前に賜りました数々のご教示への感謝と在りし日のお姿を偲びつつ、当連盟一同謹んで哀悼の意を表し、心からお悔やみを申し上げます。

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟  
会長 齊藤斗志二

西田善夫氏は1958年(昭和33年)NHKに入局、スポーツアナウンサーとして1964年東京オリンピックを含む、夏冬合わせて10回に及ぶ五輪中継は伝説となって語り継がれています。引退後はスポーツアナリストとしてご活躍。

そして、2002年(平成14年)7月14日の社団法人日本ダンススポーツ連盟(JDSF)設立総会時から2015年までJDSF理事を務められました。特にJDSFが内閣府より新たに公益社団法人として認定された2011年6月の総会において「オリンピックと放送」と題した記念講演をいただきました。(合掌)



公益社団法人設立記念講演会並びに祝賀会

(ダンスダンスダンス60号より)

自主練習時にもリーダーがフロアーへエスコートしてくれるおかげで、私の口数が減るという相乗効果も身に付きました。三日目はDTC会議室で、WDSFの新審判システムについて聴講を受け国際ルールを履修しました。

・第2回目 平成27年12月19日～21日

2度目の専門科目は、WDSFダンススポーツ教本に基づく「アプローチを重点とした」見学と実技。新世界チャンピオンほやほやの「ガブリエラ&アンナ」組によるサンバとジャイブにおける身体を使っの徹底的な音出しです。3時間跳ねて捻って腿あげて～の、ヘトヘト&汗まみれ。午後からは、重たい脚のままバレエエクササイズ3時間で深層筋は完全にノックアウトしました。

・第3回目 平成28年3月5日～6日

DTC会場では「音楽的表現」を3人の講師から丁寧に指導を受けました。6日は、東京体育館で医科学を応用したスキルアップの練習方法と実践、ジュニア育成の機構と内容を聴講し全カリキュラムが終了しました。

#### 4 専門科目の実技試験

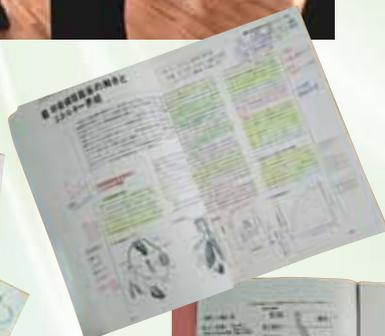
専門科目最終日に、「コーチ」の実技検定試験がDTCで実施されました。受験者1人が1カップルを20分間指導するところを審査されるものです。コミュニケーション能力や、時間内にカップルの技量を見極め適切な指導方法及び達成感を伝えられる内容か、という難易度の高い試験でした。一番緊張しましたし、シュミレーションしてきたことがなかなか生かせず、もっと勉強しなくては！と試験後の控室で密かに決意。3組のカップルさんがご協力くださったことに感謝一杯です。3月6日の専門科目終了後、受験者全員へ合格通知が渡されて皆さん安堵の笑顔。実技検定試験をクリアでき、心も弾みました。



ベネデッドからグリップの指導



▲共通科目テキスト



▲自主学習ワークブック

#### 5 共通科目の筆記試験

いよいよ日体協コーチへの道、最終峠。筆記試験の日を迎えました。共通科目Ⅰは免除されていたため2科目ですが、文章問題150問に対して4つの回答から1つを選択しマークシートを塗りつぶす180分。1問にほぼ1分しか解答時間はありません。例えば、「スポーツマネジメントに必要なのは、ヒト・カネ・モノ・コネである」本音はコネ？と含み笑いが漏れる内容もあれば、「ナショナルトレーニングセンターは東京都△区に設置された」え？住所？DTCの有明なら（泣）と波乱万丈のまま終了時刻を迎えることに。共通科目ⅡとⅢのテキスト全章から万遍なく出題され、一夜漬けは通用しないと実感。

#### 6 「ダンススポーツ」振興のために

今回、日体協の「コーチ」を受講して大学の専門課程と同等のスポーツ医科学に関する専門知識を学べたことで、運動機能を理解し今後の指導に活用できる領域が広がりました。専門科目であるダンススポーツに関しても、世界チャンピオンから最新の技術をはじめ講師の皆様からは身体機能を最大限に生かすアプローチや練習方法を教えていただき、多くの方々に生涯スポーツとして「踊る楽しさ」を伝えてゆく希望が叶えられそうです。JDSFが日本体育協会と連携して質の高い指導者育成への道を設けてくれたことは、ダンススポーツの認知や普及、アスリート育成への足がかりになると信じています。長期間の受講で出会い、お世話をいただき励ましてくださった多くの皆様方に、誌面を借りてお礼申し上げます。

音楽と共に・相手と共に・ダンスを友にできる人生はとても素敵。その支援者として一歩ずつ前進できるよう、これからも研鑽に励みます。



ラテン実技を終えて講師と受講者全員

◀ 共通科目  
テキスト内容1



ラテン競技会に出場する吉田武将・田中悦子組

# 会員拡大委員会としての新たな取り組み

会員拡大委員長 天道 貞一  
(大阪府ダンススポーツ連盟会長)



現在、わが連盟JDSFは重大な岐路にあります。ダンススポーツの愛好家が特定の年代に集中しており、急速に会員数が減少しています。これは、いわゆる「社交ダンス」界全般に言えることであり、私たちは抜本的な発想の転換が求められていると言えます。

今までダンスをスポーツとして広め定着させるために、アマチュアのための競技会を実施し、新審判システムを開発し、ジュニアの育成に取り組んできました。さらには、WDSFの教本を翻訳して映像教材も開発し、技術的な成果も果たしてきました。そして、ダンススポーツのオリンピック種目化と金メダルの獲得は私たちの悲願であり、それに向けて、今後も技術研究を進め指導力を強化して、選手の育成を進めなければなりません。

他方、現代のスポーツは、単に個人が余暇で行う趣味ではなく、国民が健康と幸福を追求するものです。ダンスの場合も、遍く国民の健康と幸福に奉仕するという方向が重要だと考えます。この点でも、わが連盟は、国民の多様なニーズに応えるため、各種のダンスと協力を進めています。「ダンスコレクションin国技館」の試みや日本サルサ協会、日本車いすダンススポーツ連盟、日本カントリー&ライン・ダンス連盟の加盟がそれです。

そして、オリンピックの種目化一つを考えても、広い国民の支持と支援が必要なのですから、選手の強化と国民への奉仕の二つの方向はいわば車の両輪といえます。

私の担当する会員拡大を考える際にも、私たちの活動が、子どもたちの健全な育成のため、働き盛りの方たちのストレス解消と生きがいのため、老人の健康と幸福のために奉仕する視点が必要だと考えます。今こそ、広く国民に受け入れられるように自由な発想で活動し、あらゆる地域や年代に会員を広めていくことが求められているのです。

その際、ダンススポーツが多様な層に広まらない原因

の一つは、初心者にとって難しすぎることだと私は考えています。現在日本で教えられている社交ダンスは、そのまま競技会で通用するスタイルです。一般に、ヨーロッパではそのように踊られていません。たとえブラックプールでもダンスタイムにはチャンピオンでさえ、そのような踊り方はしないのです。

私は再度、ダンスの原点に帰って、音楽に合わせて、どこでも誰とでも踊れるスタイルのダンスを広めるべきだと考えています。そのようなダンスとして、私は、主にヨーロッパで初心者に教えられている「ワールドダンススタイル」を推奨します。私は、これからは、どんな街でも音楽のあるところでは気軽にダンスを楽しめる、観光に来た外国の方ともダンスで楽しく交流できる、多くの人たちが気軽に組み合わせて楽しむ、その中から競技選手も生まれてくるし、また、競技選手であっても日常のパーティでは初心者と気軽に楽しむダンスをする。そういう日本にしていきたいと考えています。

私は、会員拡大委員長を拝命してから、西部ブロック各連盟に「会員拡大委員」を選任していただき情報交換をする体制を整備しつつ、ワールドダンススタイルの講習会を会員拡大委員その他の会員向けに実施するとともに、自ら介護施設などへ講習に赴いています。

これからは、他ブロックの皆さんからも会員拡大のアイデアを伺い、また、このようなダンスを広めていただき、ともに活動したいと考えています。私の会員拡大委員長在任の間には、希望は到底かなわないと思います。私には土を耕し、種をまくところまでしかできません。ぜひ、皆さんに賛同いただいて、一緒に、その種を育て、花を咲かせ、実りをもたらせていただけることを期待します。

The 18th Tokyo International Open DanceSport Championships

## 第18回 東京オープン・ダンススポーツ選手権

後援:スポーツ庁(申)・公益財団法人日本体育協会(申)・公益財団法人日本オリンピック委員会(申)・東京都(申)・毎日新聞社(申)

2016年6月5日(日) 駒沢オリンピック公園総合運動場・体育館

東京都世田谷区駒沢公園 1-1 (東急田園都市線駒沢大学駅徒歩 15 分、バス: 恵比寿駅西口より 駒沢公園下車)

### 興奮と感動の熱き競演!

#### ●競技内容

- ◎WDSF International OPEN Standard  
東京オープン・ダンススポーツ選手権 スタンダード
- ◎WDSF International OPEN Latin  
東京オープン・ダンススポーツ選手権 ラテン
- ◎WDSF OPEN Senior/III Standard
- ◎第10回U-23 オールジャパン・ダンススポーツカップ

世界ランキングポイント  
取得競技会  
DSCJ公認No.160605

主催:公益社団法人  
日本ダンススポーツ連盟

**JDSF**  
Japan DanceSport Federation

world  
**DanceSport**  
federation

駐車場  
あり

【入場券のお申し込み】JDSF会員は各所属団体へ

【一般入場券のお問い合わせ・お申し込み】

公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟「東京オープン実行委員会」  
大会事務局: 〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階  
TEL:03-6457-1858 FAX:03-6457-1857

※電話でのお問い合わせは13時~17時(土日祝日除く)にお願いします

※入場券購入申込書は、下記JDSFホームページからも取り出せます。

<http://www.jdsf.or.jp/> 日本ダンススポーツ連盟

# ジュニア アスリートクラブ 優秀選手表彰

JDSFでは、世界を目指すアスリートを育てる為に、いろいろな支援を行っております。

その一つとしてジュニア・ユースアスリートクラブ会員のジュニア選手に対して、前年1年間の主要競技会の成績を基にランキングを付与し、表彰しております。

ランキングを付与する主な対象競技会は、5月開催のグランプリin大阪のジュニア戦、7月のオールジャパンジュニアDSカップのジュニア戦、そして10月開催の三笠宮杯での全日本選手権ジュニアの3大会です。

更に東京都ジュニア大会、埼玉県ジュニア大会などの成績も優秀選手選考の参考にしております。

それらを基にこの度2015年のランキングが決定されました。この23組の優秀選手には奨励金が授与されます。この奨励金は、競技会に参加する旅費の一助となれば幸

いと思います。

そして、世界のトップレベル選手が集まる東京オープンで、優秀選手の榮譽を称え、表彰を行います。

優秀選手の皆様には、益々精進されてさらに向上し、世界を見据えた選手になるように頑張ってくださいと思います。また、惜しくもランクに入らなかった選手は、今年はランク入りするように一層の努力を期待いたします。

これからもJDSFとしては、ジュニア育成部と選手強化部とが協力して、選手強化の為に様々な支援及び行事を行って参りますので、ジュニア選手の皆様には、このJDSFの活動を生かして、世界トップレベル選手になるという目標を持って、精進して頂きたいと思ひます。

(ジュニア育成部長 溝口稔)

## ジュニア・ユースアスリートクラブ スプリングキャンプ



順位	リーダー名	パートナー名	所属県	所属サークル
1	五月女光政	五月女睿佳	栃木県	三鴨クラブ
2	石垣 和宏	中村 安里	千葉県	ダンスチームみやおか
3	萩原 匠	萩原里奈子	東京都	ダンシングエクセラント
4	樋掛 輝	岡田 愛彩	北海道	北海道DSC
5	日比野 湧	三喜穂菜美	千葉県	ダンスチームみやおか
6	柴木 毅門	井上 乃天	神奈川県	D. T. Sジュニア相模原
7	太田 歩生	太田なごみ	北海道	シャルウイダンス札幌
8	濱田 琉光	増田 有咲	栃木県	木嶋クラブ
9	千葉 隆矢	齊藤 杏美	岩手県	ボディアート一関
10	松浦 龍騎	松浦優莉華	宮城県	ジュニアダンススポーツクラブせんだい
11	濱田 琉衣	稲村 百香	栃木県	木嶋クラブ
11	濱田 琉衣	佐山千悠里	栃木県	木嶋クラブ

順位	リーダー名	パートナー名	所属県	所属サークル
13	荒井良乃介	滝本りさこ	—	ジュニアアスリートクラブ
14	長谷川 悠	安達あん珠	富山県	かがやき生涯学習J教室
15	安藤 弘倅	鮫島明日美	—	ジュニアアスリートクラブ
16	安部 邦斗	安部 美咲	千葉県	ダンスチームみやおか
17	渋井 志弘	渋井和香子	宮城県	ジュニアダンススポーツクラブせんだい
18	太田 佳輝	那須野姫佳	長野県	キッズ向山スターズ
19	山本 一真	加納 杏那	愛知県	ジュニアアスリートクラブ
20	泰永 圭吾	小川 真依	群馬県	ステップクラブ
21	安藤 弘倅	山本 琴菜	—	ジュニアアスリートクラブ
22	足立 陽貴	足立 心優	京都府	京都Dアスリートクラブ
23	川本 竜	川本 弥由	—	ジュニアアスリートクラブ

# 第8回全日本学生競技ダンス連盟 OB・OGダンス競技会

2016年3月20日(日) / 大森ベルポート

大森ベルポートに会場を移して2度目の開催となった当大会も第8回目。リーダー又はパートナーどちらかが学連OBかOGであれば、プロフェッショナルでもアマチュアでも出場できるこの大会。今回からはオープン戦には新たにヴェニーズワルトとジャイブが加わり、スタンダード、ラテン共に5種目競技となりました。ダンス人口の減少と高齢化が叫ばれる中、39競技区分に出場組数延1,300組を超える大規模な大会となりました。審査員長を務めた田中英和先生は、「65秒で審査するのは審査員泣かせ。せめて80～90秒は必要です。レベルも接近しており、ベーシックを見直して、さらなるレベルアップを期待します」と講評されました。



団体優勝の喜びに沸く立教大学

## オープン戦スタンダード



**優勝** 若代慎・辰巳友莉亜組  
(東京大学)



**準優勝** 佐井優裕・小寺真莉子組  
(東京大学)

## オープン戦ラテン



**優勝** 金光進陪・吉田奈津子組  
(東京外国語大学)



**準優勝** 竹内大夢・曾又奈々組  
(立教大学)

## 大活躍した選手の皆さん



シニアスタンダード4種目  
優勝 松村健樹・松村栄子組  
(大阪工業大学)



シニアラテン3種目  
優勝 山田重之・山田麻美子組  
(名古屋大学)



シニアライジングスター3種目  
優勝 正田守・正田美樹組  
(電気通信大学)



グランドシニアスタンダード4種目  
優勝 今井正幸・今井由香組  
(日本大学)



全日本学連名誉会長  
浦環・浦友子組 (東京大学)

## 親子で活躍!



父 綾野昌史・平山成子組  
(電気通信大学)



息子 綾野晃志郎・宮原恵那組  
(東京理科大学)



父母 鈴木彰・鈴木久美子組  
(法政大学)



娘 月成健太・鈴木美香組  
(明治大学)

# 団体優勝！

菊地健男（立教大学昭和60年卒）

過去は、第2回大会の9位が最高でしたが、流れが変わったのが12位に終わった第5回大会でした。現役でも優勝経験のなかったという東海大学の優勝に触発され、立教でもいけるだろうとOB幹事会で誓いを立て、出場選手を増やすよう声かけした第6回大会は5位と初入賞、昨年は更に努力し、まさかの準優勝で、「次は天下をとる！」と大いに盛り上がりました。

クラブは来年70周年を迎えますが、全日本の団体優勝は1984年夏と1988年夏・冬の3回のみです。経験者の私としては何としてもあの喜びと感動を他の皆さんにも味わって頂きたい、特に27年間遠ざかっている現役には「やればできる」を見せて優勝を狙ってほしいと、



今年度は本気で優勝を目指しました。それには個々の順位もさることながら、いかにフルエントリーできるか、にかかっていました。ライジングスターから70歳以上対象のロイヤルシニアまで満遍なく選手を揃えねばなりません。卒部生には4年になる時点から勧誘、卒部後30年以上踊っていない2組にも声をかけパートナーを紹介、他大学の6人には立教で出るよう説得してもらった。プロにも1組に協力頂く。とにかくメール・電話を駆使し、かけられる人には声かけまくり、中には一人で16種目出場など、可能な限り得点ポスト埋められるようエントリーしてもらいました。その結果、新卒者から71歳の前OB会長まで21組41名が現OB会長寄贈のオニユウの腕章をつけて117中110ポストにエントリーし臨むことができ、見事念願の初優勝を飾ることができました。まさに「総合力の勝利」で、胴上げと勝利の美酒に酔いしれました。

スタンダード

オープン戦表彰式

ラテン



スタンダード

ライジングスター表彰式

ラテン



スタンダード ロイヤルシニア表彰式



田中英和審査員長（関西学院大学）



川口義一大会会長（慶應大学）と池端和男副会長（一橋大学）

スタンダード

グランドシニア表彰式

ラテン



# みーくわっちーさびたん! 沖縄でダンススポーツグランプリを 10年ぶりに開催

沖縄県ダンススポーツ連盟事務局長 玉城 嶺子



「みーくわっちーさびたん!」。沖縄で10年ぶりに開催されたグランプリ大会を見終わった観客からはこんな声が上がりました。「目のごちそうさまでした」、つまり「目の保養になった」ということで、JDSFトップ選手たちのパフォーマンスを賞賛するものでした。

## 初めの課題は会場探し

沖縄県連盟設立20周年(2015年)を迎えるにあたり、記念事業の一つとして「九州グランプリを沖縄で行いたい、それも前回はラテンだったのでスタンダードを」と、開催申請をしたのが3年前。藍澤寛一九州ブロック委員長をはじめとする九州各県連盟のご理解とご協力のもと、「2015ダンススポーツグランプリin沖縄」(沖縄グランプリ)の開催が決まりました。とは言うものの、最大の課題は会場の確保です。沖縄では、毎年12月の第2日曜日「サントピア沖縄・ふれあいフェスタ」と銘打って「全国ダンススポーツフェスティバルin沖縄」(サントピア大会)を開催していますが、ここ数年は、会場が定まらず一苦勞してきました。ましてやグランプリ大会となりますと、広さや交通の便などの条件の良いところが望まれます。那覇空港から車で5分の武道館は距離的には最適な会場で、当初は借りられそうだったのですが、ダンス用のフロアを敷かなければ貸し出しは難しいということになり、予算面からあきらめざるを得なくなりました。その後、同じく空港から車で10分程度の海に近い豊里体育館などを検討・折衝しましたが、最終的には、空港から車で30分くらいと、やや遠くなってしまったものの、浦添市のご理解とご協力により、プロ野球の東京ヤクルトスワローズがキャンプを行う球場と同じ浦添運動公園内にある浦添体育館に決まりました。

## メダルへのこだわり

グランプリ大会では、1位から3位までにはメダルが授与されることになっています。これまでのサントピア大会では、D級以上の区分で3位までの成績を得たカップルにカラフルな琉球ガラスのトロフィーを授与してきたこともあり、沖縄グランプリでは琉球ガラスのメダルとすることにしました。しかし、メダルの場合は型を作らなければならないので、数は6個と限られていますので、どうしても1個当たりの値段が割高にならざるを得ません。1999年のサ



ントピア大会以来、トロフィーでお世話になってきた恩納ガラス工房の宮國次男会長(沖縄県優良県産品優秀デザイン賞受賞:2015年)にご相談したところ、パワーを秘めたメダルを、何とか予算内で制作して下さることになりました。

## すばらしい踊りに感動の声援

競技は、グランプリとしてはスタンダードとシニアIラテンが、ともに世界選手権代表選考対象として実施されました。また、サントピア大会としては、A級~D級のスタンダードとラテン(A級はスタンダードを除く)、シニアIII A級およびB級のスタンダード、そして沖縄県知事杯争奪の美ら島(ちゅらしま)スタンダードとラテンが行われました。グランプリ戦は実力通りの力を発揮した小嶋みなと・盛田めぐみ組(神奈川県)が優勝し、オレクシー・グザー・太田史圭子組(東京都)とともに2016年の世界選手権代表選手となりました。準優勝には、パートナーシップを組んで間もない久保田弓椰・セルミヤギナ ヴィクトリア組(北海道)が入り鮮烈なデビューを飾りました。さらに、すっかりファイナリストとして定着した大西大晶・大西咲菜組(ブルボンDST:富山県)が第3位となりました。また、シニアIラテンは、白井泰昭・長友奈緒組(神奈川県)が制しました。これらの踊りを目にした沖縄の観客のみなさんからは、多くの称賛の声があがりました。

## 初めての経験

選手たちの踊りのほかに来場者を引き付けたものにリアルタイム採点方法と新審判システムによる採点がありました。ペーパーレスの採点管理は沖縄の多くの人々にとっては初めて目にするもので、また決勝では新審判システムによる採点が行われ、ソコ競技において1カップルが踊り終わるたびに大きなスクリーンに映し出される結果に感嘆の声が上がるほどでした。一方、観客のみなさんにはほとんど知られず沖縄で初めて行われたのが、ドーピング検査でした。浦添体育館としても初めての経験だそうで、検査に支障がないようダンス以外で体育館を利用する人々に対しても協力していただけるようお願いしていただきました。

最後に、これまでのサントピア大会よりも多くのプログラム広告をいただくなど、多くの人々の支えにより、すばらしい記念大会になったことを感謝いたします。

## グランプリスタンダード



優勝 小嶋みなと・盛田めぐみ組(神奈川県)



準優勝 久保田弓椰・セルミヤギナ ヴィクトリア組(北海道)



第3位 大西大晶・大西咲菜組(ブルボンDST(富山県))



第4位 八谷和樹・皆川円組(千葉県)



第5位 山田恭平・秋山彩織組(東京都)



第6位 佐藤祐馬・久保田理沙組(東京都)



沖縄県知事杯争奪  
美ら島スタンダード表彰式  
優勝 戸井田幸男・阿部加代子組  
(茨城県)



沖縄県知事杯争奪  
美ら島ラテン表彰式  
優勝 宮田良一・濱地千夏組  
(神奈川県)



A級戦 ラテン 表彰式

優勝 大木大樹・大木風香組 (北海道)  
準優勝 太田歩生・太田なごみ組 (北海道)  
第3位 照屋瑠華・仲地かれん組 (ダンスサークル照屋)  
第4位 川内博史・新西妙子組 (鹿児島県)



優勝 白井泰昭・長友奈緒組 (神奈川県)



シニアIラテン 表彰式

## 鮮烈なデビューを飾った久保田弓椰&セルミヤギナ ヴィクトリア組

私と前パートナーの妹・蘭羅は、目標としていた過去最高の三笠宮杯8連覇を達成した昨年、それぞれの道を進むことになりました。妹は競技を引退して指導者を目指し、私は競技を続ける決断をしました。

そんな中、現パートナーのビクトリアからカップル結成の話がありました。カップルを結成するにあたって、一番大事なことは家族・コーチも含めて目指す目標が同じであることで、その点について両家族でしっかりと深く話し合いました。ビクトリアは、ロシアのハバロフスク出身です。私も子供の頃からハバロフスクを訪れることは多く、ビクトリアとは以前から面識がありましたし、海外で同じ競技会に出場することも多々あり、私はビクトリアの実力を認識できていました。

カップル結成後は、11月下旬から札幌で練習を開始し12月13日のグランプリ沖縄 (スタンダード) を目指しました。その3週間

は早朝から深夜までハードな練習を毎日続け、デビュー戦で準優勝という結果となりました。年明け後はハバロフスクやスロベニア・デンマークに遠征し、競技会やトレーニングを重ね、ラテンデビュー戦のコペンハーゲンオープンでは、ライジングで第3位に入ることができました。カップル結成後、休むことなく厳しい練習についてきてくれたビクトリアに感謝しています。



今後、各グランプリに出場していく予定ですので、是非、皆さんには私たちのダンスを見ていただき、たくさんの応援をいただけたらうれしいです。  
(久保田弓椰)

新カップルの久保田弓椰 & セルミヤギナ ヴィクトリア組

## 沖縄県ダンススポーツ連盟創立20周年記念式典

沖縄グランプリから1カ月後の1月10日(日)、豊見城中央公民館において連盟創立20周年記念式典が開催されました。

「サントピア沖縄・ふれあいフェスタ」は、冬でも温暖な気候を生かして行われるスポーツと文化の祭典です。その一環としてダンスの競技会が開催されることになり、当時のJADA会長の故山口繁雄氏の指導のもと、1995年(平成7年)6月に沖縄県にアマチュアダンス協会(現在の沖縄県ダンススポーツ連盟)が誕生しました。

記念式典は比嘉和雄会長の挨拶から始まり、発足から20年の軌跡が紹介されました。その20年の発展に貢献された沖縄県の役員9名、サントピア沖縄やジュニア指導等で多大な功績をされた「子どもダンスうंदう」でお馴染みの小林英夫先生、設立から組織や事業運営を指導された塚本徹福岡県DS連盟会長に表彰状が授与されました。

比嘉和雄会長より「3年間の気象庁沖縄気象台赴任をきっかけに沖縄県DS連盟が大変お世話になってきた」と紹介された岸尾政弘JDSF総務部長より、ダンススポーツを取巻く現状と課題等についての記念講演がありました。

式典に続き、記念交流大ダンスパーティでは、久保田組の師匠である小林英夫先生の楽しい司会により久保田弓椰・セルミヤギナ ヴィクトリア組によるすばらしいデモンストレーションが披露されました。



久保田弓椰・セルミヤギナ ヴィクトリア組のデモ



小林英夫先生、比嘉和雄会長と久保田弓椰・セルミヤギナ ヴィクトリア組



開催に先立ち行われた石原正幸・久保田蘭羅両氏による技術講習会



大ダンスパーティ



比嘉和雄会長



ご来賓の神谷雄雄 沖縄県体育協会副会長



司会の森悦子さん



岸尾政弘JDSF総務部長の特別講演



表彰者と役員の方々



沖縄県DS連盟所属 小波津高志・大嶺裕美子組のデモ



ダンススポーツサークルワハハの皆様によるフォーメーション



大震災から5年

# 宮城県ダンススポーツ連盟 創立35周年祝賀会



2016年2月11日(木・祝) / 東松島市民体育館

宮城県ダンススポーツ連盟副会長 狩野 悌一

## 今をがんばろう! とともに前へ!!

2011年3月11日の東日本大震災。その年の7月3日(日)、仙台市内で唯一使用可能だった宮城広瀬総合運動場体育館で仲間との“再会の喜び、踊れることの楽しさ”を噛みしめた東日本大震災復興支援チャリティー大パーティ。あれから5年、宮城県の中中部、仙台湾沿岸に位置する東松島市において、宮城県ダンススポーツ連盟創立35周年祝賀会が開催されました。



阿部秀保東松島市長



佐々木啓宮城県ダンススポーツ連盟会長



東松島市は、2011年3月11日に発生した東日本大震災にて甚大な被災を受けた地です。あのすさまじい震災から5年を迎えるなか、被災した会員が多い石巻支部が主管して開催した宮城県ダンススポーツフェスティバル。限られた出席者だけでなく被災者も含め多くの方々と一緒に創立35周年を楽しく祝うことができ、意義ある祝賀会となりました。宮城県ダンススポーツ連盟は1979年に県北地域にて活動が始まり1980年に初代会長の高城義弘会長の時に競技会を開催したのがはじまりです。会場には、歴代の会長や役員も出席し、フェスティバル参加の300名の会員とともに創立35周年を祝いました。

開会式には、来賓として東松島市の阿部秀保市長が出席し「東日本大震災では、東松島市は大きな被害を受けた地です。被災時に1000名以上の御遺体をお送りしたこの体育館は、震災の象徴でもあり、ここを利用させていただき感謝いたします。ダンスを通し被災者によりそっていただくとともに、皆様も心身の健康増進を図っていただきたい」とのご挨拶がありました。また、歴代会長を代表し佐々木啓会長からは、「35周年の歴史を創り上げた歴代の役員への感謝の言葉とともに東日本大震災後「ダンススポーツで人や街を元気に」を合言葉にオール宮城で活動してきた。絆を強めたダンススポーツの力は大きかった。これからも、前を向いて一緒に進んでいこう」という力強い挨拶がありました。さらに、「県連は、全国からの温かいご支援により再生できた。感謝の気持ちを、いつまでも忘れないようにしましょう」と述べられました。

そして、震災後、復旧、復興に尽力され、県連発展に貢献した39名の会員に功労賞、支部功労賞が贈呈されま



役員スタッフ一同記念写真(右から2番目が筆者)

した。代表して功労賞を授与した石巻支部の藤井剛さんは、「震災当時は石巻支部長をしておりました。会員の安否確認、復興に向けて活動したのが思い出されます。ダンスができたときは、喜びを感じました」と話していたのが印象に残ります。

デモンストレーションやアトラクションもなく華やかさはありませんでしたが、35年の思い出と震災からの復旧・復興を語りながら、新たな未来にはばたく決意を新たに祝賀会となりました。



競技会

# 2016スーパージャパンカップダンス 全日本セグエ選手権・全日本選抜ダンス選手権

2016年3月5日(土)・6日(日) / 幕張メッセ・イベントホール

公益財団法人日本ボールルームダンス連盟 (JBDF) は、文部科学省が2011年に改訂した「スポーツ基本法」の理念に則り、日本のダンス界を代表する公益法人として、国際競技力向上とともに、生涯スポーツ・生活文化としてのダンスを広く社会に普及・振興することを目標に事業を展開しています (大会プログラムより抜粋)。この大会では、アマチュア選手競技としてJBDF選抜アマチュア選手権、DSCJ-B級選手権、ジュニアダンス選手権等が開催されました。

## JBDF選抜アマチュア選手権 スタンダード表彰式



優勝 藤井創太・吉川あみ組  
準優勝 小嶋みなと・盛田めぐみ組  
第3位 渡辺安登・石垣真衣組



優勝 藤井創太・吉川あみ組  
準優勝 小嶋みなと・盛田めぐみ組  
第3位 渡辺安登・石垣真衣組  
第4位 長屋智久・今村有花組  
第5位 日比野湧・三喜穂菜美組  
第6位 志比悠照・佐藤菜々子組



優勝 藤井創太・吉川あみ組  
準優勝 渡辺安登・石垣真衣組  
第3位 名越慎悟・名越明子組  
第4位 海老原拳人・タカギルナ組  
第5位 押川慧悟・和田知世組  
第6位 田沢拓都・徳野夏海組

## JBDF選抜アマチュア選手権 ラテンアメリカン表彰式



優勝 藤井創太・吉川あみ組  
準優勝 渡辺安登・石垣真衣組  
第3位 名越慎悟・名越明子組



DSCJ B級戦 スタンダード表彰式 (優勝は左端：早坂優太郎・南雲涼組)



DSCJ B級戦 ラテン表彰式 (優勝は左端：村松樹・降旗友希組)



ジュニアダンス選手権 スタンダード表彰式



優勝 日比野湧・三喜穂菜美組



ジュニアダンス選手権 ラテン表彰式



優勝 五月女光政・五月女睿佳組

## 全日本セグエ選手権



スタンダード部門  
優勝 大西 亘・池田ちかる組

ラテン部門  
優勝 山本武志・木嶋友美組

プロフェッショナル競技の全日本セグエ選手権は、カップル毎のソロダンスで競われ、スタンダード、ラテン両部門において各5種目中3種目以上で構成されるのが大きな特徴です。



## ダンスとリズム

「リズムとビートの学習」というテーマでJDSFの皆さまと二度にわたりお話させていただきましたが、今回は「リズムとダンスの関わり」と「リズム感の養い方」に重点をおいてお話させて頂きたいと思います。

まず、「リズムとダンスの関わり」ですが、音楽に合わせて踊るダンススポーツにとって、「リズム」との関わりは切っても切り離せない大事な要素になるでしょう。「リズム感のある踊り」と「リズム感のない踊り」では表現の伝わり方も違うでしょうし、審査の評価対象としても大事な一部分になるはずです。では、どうすれば「リズム感のある踊り」が出来るのか。「リズム感のない踊り」をする人は何が足りないのか。私なりの考えをお伝えします。

「リズム感のある踊り」をするためには、曲ごとのリズムを理解する必要があります。主旋律のリズム、管楽器のリズム、弦楽器のリズム、打楽器のリズム等と曲で使われている楽器の数だけリズムが存在しますが共通するルールがいくつかあります。

基本的なルールとして、拍子とテンポがあります。拍子には3拍子、4拍子、6拍子、8拍子等あり、1小節（区切り）の拍の数を決めるものです。ワン、ツー、スリー、ワン、ツー～なのか、ワン、ツー、スリー、フォー、ワン～なのかといった具合です。この拍の長さがテンポによって決まります。ここまでは、皆さん練習の時から拍子をカウントされているので、認識に差はないのですが、気をつけなければならないことがあります。それは1拍1拍の区切り方です。スロウなテンポの曲では、「1 and 2 and」と拍と拍の間でエンドとカウントすることがあると思いますが、全ての曲でエンドが当てはまる訳ではありません。どういうことかという、エンドのカウントは1拍を2等分しているのですが、3等分されている曲もあるということです。所謂ハネているリズム。ジャズやワルツ調の曲に多く、学問的にはandではなくtriplet（3連符の意）を使い「1 trip let 2 trip let」とカウントします。（実際に意識するときには拍の最後の文字をもう1度発音すると意識しやすいと思います。「ワン、ン、エンド、トゥ、ウ、エンド、スリー、イ、エンド、フォー、オ、



エンド」) 4等分や6等分されている分には2等分してカウントしていても曲とずれることはないのですが3等分されている曲でエンドをカウントし水本泰弘選手強化部長と水本慶子（ジュニア育成部）さんの御子息の泰喜氏には、JDSFのジュニア指導員講習会にも二度にわたり講師を務めていただきました。

てしまうと、曲のルールと全く噛み合わなくなってしまうのです。

こういった誤認をしないために意識していただきたいのが、数ある楽器の中でより細かいリズムを出している楽器を良く聴くことです。スロウな曲だと歌等の主旋律が一番細かくリズムを出していることもあります。基本的には打楽器が一番細かくリズムを出しています。細かくリズムをとることによって、拍が何等分されているかがわかり、曲に合ったカウント、動きをすることが出来ます。細かいリズムを意識して練習することによって踊りのリズムが走ったり、おくれたりしなくなります。

リズムへの理解が出来ても、自分でそのリズムを表現することが出来なければ「リズム感のある踊り」は出来ません。そこで「リズム感」が必要になってくる訳です。これは踊りのレッスンと同様、意識して脳みそを刺激してあげることで鍛錬することが出来ます。ワン、ツー、スリー、フォーと手拍子出来ない人はいないと思います。これは手拍子する動作が単調であるためにワン、ツー、スリー、フォーと意識しているだけで自然とリズム良く手拍子が叩けるわけです。しかし歌やダンスなど、難しい動作をする時、カウントを意識することが出来ずに、リズムがずれてしまったりするわけです。

さて、どのように鍛錬していくかですが、やることは非常に単純です。音楽を聴く時もレッスンをする時も常に自分の口でカウントをしてみてください。大きい声の方が効果がありますが、小さな声でも効果はしっかりあります。先生がカウントするだけではあまり意味がありません。自分で口にすることによってしっかりと自分で拍、リズムを認識することができます。ワンツースリーフォーだけでなくエンドカウントやより細かく、「リズムとビートの学習」で取り扱った「e（イー）やa（アー）」等で細かくワン、イー、エン、ダートゥー、イー、エン、ダーとカウント出来るとより正確に拍とリズムを意識出来ます。拍、リズムをしっかり認識しながらレッスンをすればリズムと踊りがリンクしてきます。どの拍でどういう動きをするのか。この拍の間をどれくらいのスピードで動けば次の拍に間に合うのか、全ての動きを拍やリズムとリンクさせながらトレーニングすることにより、自然とリズム感は養われ、「リズム感のある踊り」に繋がる訳です。

「リズム感のない踊り」は曲のテンポにはあってもリズムが合っていないかったり、走ったり遅れたりしてしまっていることが主な原因になっているのでしょう。まずは踊る曲のリズムを理解し、拍の間の細かいリズムまでカウントをしながらレッスンをすることによって「リズム感のある踊り」をすることが出来るようになると思います。（水本泰喜・ドラマー）

# 全日本リーキャン取り組みについて

2015年度全日本学生競技ダンス連盟理事長 林 宗親 (東京農業大学)  
東部日本学生競技ダンス連盟理事広報部長



全日本学生競技ダンス連盟は、北は北海道から九州まで、7つの連盟（ブロック）で構成されています。例年、春と夏に全連盟の理事が集まり、全日本リーダーズキャンプで評議会を開催し、夏の全日本選抜選手権と冬の全日本学生選手権戦（通称、夏全・冬全）など共通の課題について取り組んでいます。2015年度に新たに取り組んだこととこれからの課題について述べてみたいと思います。

今年の議題は「冬全日本戦のジャッジ比率と全日本戦におけるジャッジ頻度の見直し」、「フォーメーションの採点基準の明確化」、「全日本戦における会場管理規約」、「全日本学連の加盟委員登録の是正」、「採点システムの向上」が主にあげられました。

ジャッジについては、冬全のジャッジ比率はスタンダードとラテンの混合9人ジャッジであったのを「専攻別でそれぞれ7人ジャッジ」に変更しました。また、全日本戦におけるジャッジ頻度の見直しは、ジャッジ頻度を1年間つまり1大会おき（例えば2015年の夏全の次は2016年の夏全）であったのを2大会おき（例えば2015年の夏全の次は2016年の冬全以降）に変更しました。フォーメーションの採点基準の明確化は、「芸術点と技術点の二項目で採点」であったものを「テーマ性、同調性・同時性、構成力、完成度の四項目での採点」に変更しました。それらを意識し演技をつくっていくことが全体の質の向上になると考えています。全日本戦における会場管理規約は、夏全は関西学連、冬全は東部学連の規約を適用し懲罰は罰金方式を採用することにしました。関西と東部の違いをわかりやすくまとめ、いつでも参照できるようにホームページを改善していきます。全日本学連の加盟委員登録の是正は、不正な大会出場を防止するために加盟委員の在学証明書の提出を東部学連だけではなく他のブロックの



東京農業大学フォーメーションチームの円陣

にホームページを改善していきます。全日本学連の加盟委員登録の是正は、不正な大会出場を防止するために加盟委員の在学証明書の提出を東部学連だけではなく他のブロックの

学連にも義務づけたことです。例外（短大生など）を除く現役生以外の大会出場を認めないためです。

これからの課題としてはジャッジシステムのデジタル化などがあります。ジャッジペーパーの代わりにスマートフォンなどの端末を用いて採点管理の精度・速度を向上させ、進行を円滑にすすめていきたいところです。タイムスケジュールに余裕ができてくれば「ヴェニーズワルツとジャイブ」の導入に現実味が増してきます。ヴェニーズワルツとジャイブの導入が実現できていないのは、単にタイムスケジュールだけが原因ではないのと考えています。全東北学連では正式種目ではありませんが、既に公式競技会で実施されています。また、1948年の学連設立時は「ワルツ・タンゴ」、1956年から「スローフォックストロット・クイックステップ」が加えられ、1972年頃から「チャチャチャ・ルンバ」、1984年頃から「サンバ」、1993年頃から「パソドブレ」を先輩たちが導入し今の学連が存在すると思うと、やってやれないことはないかと痛感しています。

全てすぐに実現はかなり難しいかもしれませんが、「改良」より大胆な「革新」が学連の新時代を築くと考えます。自分たちができなかったことをどうすればできるのかを先輩たちに引き継ぎ、また現状を十分に把握しできることからやっていけるようにアドバイスしていきたいと考えています。学連の4年間をやり切ることができたのは周りの人たちに支えられたからです。この場をお借りして御礼申し上げます。



全日本リーダーズキャンプ

日本初 開催決定!

WDSF公認 **世界ダンススポーツ選手権ユース・スタンダード2016**

WDSFオープン ユース・ラテン  
全日本オープン スタンダード/ラテン  
九州ブロック選手権 シニアⅡ スタンダード/シニアⅢ スタンダード

日時: 2016年7月9日(土)・10日(日)

会場: 北九州市立総合体育館

主催: 公益社団法人日本ダンススポーツ連盟  
共催: 北九州市(申)・北九州市教育委員会(申)  
主管: 世界ユーススタンダード実行委員会  
後援: 外務省・スポーツ庁(申)・公益財団法人日本オリンピック委員会(申)・公益財団法人日本体育協会(申)・公益社団法人 西日本産業貿易コンベンション協会(申)



# 第8回ダンススポーツフェスティバル in 東京

## (WDSFシニアⅡ世界選手権日本代表選考競技会)

3月5日(土)、東京体育館において、WDSF世界選手権日本代表を選考する全日本選手権シニアⅡA級戦、東京選手権シニアⅠA級戦、東京選手権シニアⅡB、シニアⅢA、やB級、C級、D級、1級から3級それぞれスタンダード、ラテン種目24競技が実施され、シニア選手大集合で盛り上がりました。



全日本選手権シニアⅡA級戦 スタンダード表彰式



全日本選手権シニアⅡA級戦 ラテン表彰式



東京選手権シニアⅠA級  
スタンダード 優勝  
高杉耕一・高杉綾子組(東京都DSC)



東京選手権シニアⅠA級  
ラテン 優勝  
井上隆之・竹岡千尋組(神奈川県)



全日本選手権シニアⅡA級戦  
スタンダード 優勝  
草場康司・草場利佳組  
(東京都DSC)



B級戦 スタンダード表彰式



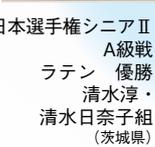
B級戦 スタンダード 優勝  
須崎博・横山きよみ組(東京都)



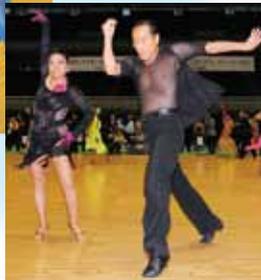
B級戦 ラテン表彰式



B級戦 ラテン 優勝  
齊藤飛翔・山田美紅組  
(立川市)



全日本選手権シニアⅡA級戦  
ラテン 優勝  
清水淳・清水日奈子組  
(茨城県)



全日本選手権シニアⅡA級戦  
ラテン 優勝  
清水淳・清水日奈子組  
(茨城県)

# ジャストフィットエンビ

大絶賛!  
人気商品

最軽量&ストレッチで  
フィット!!

芯地を抜いて  
胴体にもフィット!!

既製品

¥145,000(税別)  
のところ、JDSF会員価格

¥130,500(税別)  
にて販売しております。

※詳しくはJDSF HP内  
申込書をご確認ください。

袖幅は極限まで  
絞込みフィット!!

¥145,000(税別)(既製品)  
上下・カマーバンド・ポケットチーフ付  
¥160,000(税別)(オーダー)  
サイズ(9サイズ):YAM~LL AM~LL ABM~ABLL

JDSFスタンダードA級  
菅原一樹

東京・秋葉原



東京トリキン(株)

エンビのトリキン

TEL.03-3866-4854 FAX.03-3866-4033

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-4-1 <http://www.torikin21.com>  
営業時間/月~金 10:00~18:30 土日祝 10:00~17:30



# 第20回静岡県西部地区ダンススポーツ競技大会

2016年2月14日(日)／浜北総合体育館

日本のほぼ中央、東京と大阪の中間に位置する浜松市は、温暖な気候に恵まれ豊かな自然に囲まれています。また、世界に名立たるヤマハ、カワイでお馴染みの楽器メーカーが立地し「楽器のまち」としてよく知られています。そして、世界の人々が音楽の豊かさや楽しさを求めて集まる「音楽の都」へと、さらなる発展を目指しています。加えてご当地グルメとして、餃子が挙げられます。そしてNHKの連続テレビ放送『ととねえちゃん』は浜松が舞台です。静岡県ダンススポーツ連盟金子和裕会

長(JDSF常務理事)のお膝元の西部地区での競技会です。会場となった浜北総合体育館(グリーンアリーナ)は前日の13日に新東名高速道路豊田ジャンクションが完成し、名古屋方面からも大変便利になりました。

競技はオープン戦の遠江カップ戦、シニアⅡ及びⅢA級戦、C級戦、D級戦、プレジュニア戦、プレジュブナイル戦など22競技が実施され延235組が出場し熱戦が繰り広げられました。



鈴木康介大会会長  
(静岡県西部支部長)

## スタンダード 遠江カップ戦



優勝 大谷光利・井口京子組 (西部地区DSC)  
準優勝 堀川文夫・堀川貴子組 (福島県)  
第3位 滝川舞・滝川綾乃組 (愛知県)  
第4位 松下正芳・北見伸子組 (西部地区DSC)  
第5位 小森高士・森田葉子組 (ダンスサークル浜松F&B)  
第6位 鈴木孝夫・鈴木清美組 (磐田ASD)

## ラテン 遠江カップ戦



優勝 滝川舞・滝川綾乃組 (愛知県)  
準優勝 山本哉斗・西聖良組 (浜松市)  
第3位 山本萌絃・松島優美組 (浜松市)



優勝 滝川舞・滝川綾乃組 (愛知県) (遠江カップ戦スタンダード第3位)



準優勝 山本哉斗・西聖良組 (浜松市)



優勝 大谷光利・井口京子組 (西部地区DSC) (C級戦スタンダード優勝)



準優勝 堀川文夫・堀川貴子組 (福島県) (シニアⅢ A級戦ラテン準優勝)



スタンダード プレジュニア戦  
優勝 滝川貴之・山下実妃組 (愛知県) (プレジュブナイル戦ラテン優勝)



ラテン プレジュニア戦  
優勝 山本萌絃・松島優美組 (浜松市)



サンバ プレジュブナイル戦  
優勝 林夏希・萩原朱里組 (DCJrルンルン)

## スタンダード シニアⅡ A級戦



優勝 杉山典克・杉山美子組 (西部地区DSC) (シニアⅡ A級戦ラテン優勝)

## ラテン



## ☆ My Dream ☆

梶田哲郎 & 梶田末子組  
(ダンスサークル浜松F&B)

息子さんとお母さんのカップルです。哲郎さんはテニスが趣味でしたが、ダンスを始めると楽しいし、性に合うと感じたと言います。ダンス歴3年、タンゴが大好きとか。パートナーのお母さんはダンス歴9年。先生の指導を受けて、これからも続けて踊っていきたくて、嬉しそうなのはお母さんの方でした。

本日の結果はC級ラテン、スタンダード共3位に入賞しました。



# シニアⅣスタンダード世界選手権

(ベルギー／アントワープ)

出場選手一同



WDSFシニアⅣスタンダード世界選手権は、2月5日(金)～7日(日)の3日間、ベルギーのアントワープで開催されました。アントワープは、ダイヤモンドの街として有名で、大会名称にはアントワープ・ダイヤモンドカップという冠がつき、優勝者には、ダイヤモンドの形をしたトロフィーが授与されます。シニアⅣスタンダード世界選手権は、大会第1日目に開催されました。オープニングセレモニーでは、WDSFの旗を先頭に世界15か国、122組の入場行進がありました。ドイツ、イタリアが40組の大選手団の中で、日本は4組での挑戦でした。岩瀬純夫・恵理子組と田玉仁・公子組が準決勝まで進み、岩瀬組は惜しくもあと1チェックで決勝入りの7位に、那須與志人・洋子組が4次(最終)予選、奥田敏行・西久保擴子組が3次予選と、少数ながらシニアⅣでの日本の存在感を十分にアピールすることができたのではないかと思います。

大会3日目には、WDSFシニアⅣオープンスタンダードが開催され日本から同じ4組が出場し、田玉組と岩瀬組がみごと決勝に駒を進め、田玉組が第3位、岩瀬組が第5位に入賞しました。那須組は準決勝、奥田・西久保組は最終予選と、今年もまた、オープン戦でも十分世界で戦えるとの感触を得ました。

このところ、世界選手権への参加について聞かれることが多くなりましたので、参加要領をご紹介します。シニアⅣとは、65歳と60歳以上のカップルです。前年又は、当年の、全日本選手権シニアⅡ、シニアⅢ、シニアⅣのいずれかの大会、シニアⅠ世界選手権選考大会への出場で、シニアⅣ世界選手権への出場資格が得られます。今年も4組という少数だったこと、全員が首都圏からの参加であることなどから、全員が出発から帰国まで同一スケジュールで行動しました。航空チケットやホテルの予約は、旅行代理店にお願いする方法もありますが、今回は予め日程を調整した上で、それぞれ、自分たちで行いました。はじめての人には出場経験者がわかりやすく説明し、航空チケットは航空会社のホームページから予約し、ホテルはオフィシャルホテルが指定されるので、そのホテルのホームページや、ホテル予約サイト(Hotels.com)などで申し込みます。世界選手権のエントリー料は無料ですが、交通費、宿泊費、オープン戦のエントリー料などは、全て、個人負担となります。

今回は体調管理のため、例年より1日早く出発して2日の時差調整日を設けました。お蔭で、全員が体調よく大会に臨

むことができました。私達参加者にとっては、テロの影響があることが最大の問題でした。パリのテロ事件の首謀者がブリュッセル近郊に潜んでいるとの情報があり、ブリュッセルの警戒レベルは4段階中3という、かなり厳しいものという情報があったからです。実際、現地に行くと、迷彩服に身を包みカービン銃とピストルを持った警察官が二人一組になって警備するというものものしい警戒態勢でしたが、そのお陰か、街の雰囲気は平穏でした。昨年10月1日に成田-ブリュッセルの直通便が就航し、かなり便利になりました。ブリュッセル空港からアントワープのホテルまではリムジンバスがあり、ホテルの前で降ろしてくれます。大会終了後、ブリュッセルに1泊して、ブリュッセルを観光してくる予定でしたが、アントワープにもう1泊することにしました。その結果、アントワープで7泊となりました。予想していたより、平穏な雰囲気だったため、大会終了後の2月8日は、全員いっしょにアントワープ中央駅からブリュッセル中央駅まで列車で移動し、徒歩でグランプラスの観光とムール貝とワッフルの昼食を楽しんできました。3年前には12組の日本選手がアントワープのシニアⅢ世界選手権に参加したのですが、その時は、市内の移動は大会会場への無料シャトルバス以外、全てタクシーを利用しました。今回は、タクシーの利用は1度もなく、すべて路線バスを利用しました。アントワープのバスやトラムのシステムは複雑でわかりにくいのでホテルとアントワープ中央駅間のバスの乗り方だけを覚え移動しました。ホテルからアントワープ中央駅まではおよそ5km、信号も多く、時間により渋滞もあるので、10分～15分程度ですが、3ユーロ(約400円)と日本と比べ高額です。途中で、グループチケットという制度があることがわかり、総勢9人での移動の際は1.2ユーロになりました。その他、バス、列車、美術館、教会の入場に、シニア割引があることもわかりました。

今年の世界選手権は、外国選手から話かけられたり日本選手から話しかけたり、という場面が多々ありました。多くの外国選手から、「日本でシニアⅣ世界選手権を開催するよう検討しているようだね」と言われ驚きました。外国の選手は、日本の国に興味があるようです。同じ年齢層でありながら、10歳ぐら若い若く見える日本人選手に興味津々のようです。もし、日本でシニアⅣ世界選手権の話が実現するようであれば、外国選手にとっても、日本選手にとっても、素晴らしいことだと思います。

(千葉県ダンススポーツ連盟 奥田敏行)



田玉仁・公子組



岩瀬純夫・恵理子組



那須與志人・洋子組



WDSFシニアⅣオープンスタンダード表彰式



奥田敏行・西久保擴子組(筆者)



前を向け。  
未来たち。

追いかけて来い。追い抜いて行け。  
若い君たちの可能性こそが未来だ。



スポーツくじ

toto BIG

スポーツは育てることができる。



スポーツくじ(toto・BIG)の収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。

[www.toto-growing.com](http://www.toto-growing.com) 19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

ダンス・ダンス・ダンス  
第79号 (SPRING)

平成28年4月発行

■ 発行人／山田 淳(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟専務理事)

■ 編集長／神宮周二(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部)

■ 企 画／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部

■ 発行所／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階 TEL.03-6457-1850 FAX.03-6457-1857

<http://www.jdsf.or.jp>

©本誌の記事・写真の無断転載を禁じます。